

3月28日通常議員総会が開催され、次年度の事業計画、予算案が満場一致で原案通りに可決されました。

欧州の財政状況の悪化は国家が倒産状態であり、貿易に依存する我が国にとっては更なる競争激化は避けられず、エネルギーの高騰、大地震の復興の停滞、空洞化と地方経済にも大きな影を落としております。

特に小売商、飲食業界への影響は大きいと予測されております。幸いこうした厳しい状況の中にあって、君津は順調に推移いたしており、県内からは「君津は良いですね!」と羨望されております。会員数、期初1,815社、期末1,805社。退会社が続出する中、県内では類例の無い健全な会議所の証明であります。経済が厳しく不安なときにこそ心を託する良い仲間たちがいる会議所が心の支えとなっているからであります。1社では中小零細企業は何もできないけれど、小さい力を合わせれば、政治も行政も地域社会も動きます。

次年度は更に政治、行政と連絡協調を密にして、君津市が持っている素晴らしい大自然を生かし、事業展開を進めて参りたいと願っております。

観光のGDPは一人1万円と言われます。まず会員増強に努め、財政基盤の強化を図り、会員の経営上の課題への支援、指導を充実して昨年の窓口巡回相談3,700件を超えて参りたいと思います。

また保険、共済、事務委託、決算代行あるいは経営改善資金の支援等の会員のバックヤードの負担を軽減する応援をさせて頂くことによって会員の皆様方が本来の業務に専念できる会議所の役目を果たして参りたいと思います。

24年度の概算総収入は凡そ1億4千万円(繰入繰出し除く)であり、その内訳は一般会費2,613万円、特別会費1,032万円(議員)、県交付金3,600万円、市交付金2,200万円、事業収入1,230万円、手数料収入2,470万円、賦課金132万円、雑収入34万円、繰越金600万円等であります。特に事業収入と手数料収入は、保険、共済事業、事務、決算代行を夜遅くまでの大変なご苦労と努力、会員の皆さんの絶大な理解、協力の成果であります。お陰様で自主財源60%を超える県下でも優れた健全な会議所として、評価される所以であります。

会員会費3,645万円のうち1,032万円は議員、役員の特別会費からであること申し添え、改めて感謝を申し上げたい。これらの収入に対して支出の主な内訳であります。会員活性化事業費として5,340万円、一般管理費として約7,900万円(内訳:給与5,300万円、福利厚生費835万円他事務、家屋、渉外費、負担金等凡そ1,700万円)であります。この予算で見られるよう、会員一社平均15,000円の会費は小さな者たちが集まり、力を合わせれば14,000万円の大きな力となる事を、改めてご認識ください。

特に鈴木市政は地元産業の育成をと中心市街地活性化、副次核、亀山駅周辺、久留里観光交流センター、清和観光交流センター、ミツパツツジの里、片倉ダム周辺、フルーツライン、観光情報発信、滞在型観光、久留里線100周年、案内板等の整備事業、グルメ普及、市民ふれあい祭り等に格別のご配慮下さり、中小企業へ利子補給、預託金を含めると4億円近い市経済部の事業予算として組み入れてくれました。

これから来るべき経験した事の無い少子高齢化時代、毎年千葉市(90万人)の一つが消えてゆく日本の人口減に備えて、鈴木市政の配慮に感謝し、君津市民の働く場所を私達は守って行く責任と義務があります。三舟山ウォーク、小糸川桜まつりは大変な人で賑わっておりました。久留里の楽市楽座…是非ご参加下さい。

市税1%支援事業をもっともっと活用して地域の活性化に頑張りましょう!